



オヒョウモモ

68 編は端書に **指揮者によって。ダビデの詩。賛歌。歌。** とあります。10 連からなり、「神の軍勢の進軍」とも名付けたい、勝利を信じる勇壮な賛歌です。

最初の 1 連～3 連では「神」を賛美しています。神に逆らう者は必ず御前に滅び去る。神に従う人は誇らかに喜び祝い／御前に喜び祝って楽しむ。(68:3) と、神に逆らう者は滅び、従う者は喜び祝うと、祝福と裁きの神として、褒めたたえます。神は **聖なる宮に** います 方であり、**みなしご やもめ 孤独な人 孤独な人** 寄る辺ない、貧しい、弱い人々を顧み、助けられる神です。その徴として

「出エジプト」の故事を挙げています。イスラエルの民が弱い者だからこそ選び、**神よ、あなたが民を導き出し／荒れ果てた地を行進された** けれども、**神よ、あなたは豊かに雨を賜り**、助け、導いて下さった。**恵み深い神よ／あなたは貧しい人にその地を備えられた** と、神の恵みを歌っています。

中間部の 4 連～8 連は「ダビデ・ワールド」と、名付けたいほどです。

- ① **女たち** まずは女です。**大勢の女たちが良い知らせを告げる「王たちは軍勢と共に逃げ散る、逃げ散る」と。**と、敵の敗走を女たちが知り、民に伝える。女たちは戦利品を手にして喜ぶ。ダビデは女に愛され、愛しました。平和を察知し、最も喜ぶのは女であるとダビデは知っているのです。
- ② **嗣業の地の山々** **神が愛して御自分の座と定められた山 ツアルモン山**(シケムのエバル山)と、**バシャンの山**(ガリラヤ湖の北東の山地)の悲しみを歌います。神に背く者たちが根拠地としたのでしょうか。嗣業の地は気高く美しいのに、そこに住む民が神に背いたことを、嘆き、咎め、悲しみます。
- ③ **共なる神** 神の軍勢はダビデと共に戦い、勝利しました。**神の戦車は幾千、幾万／主はそのただ中にいます。**同時に聖所、高い天におられて、人々を招く。**主よ、神よ／あなたは高い天に上り、人々をとりこし／人々を貢ぎ物として取り、背く者も取られる。彼らはそこに住み着かせられる。**
- ④ **死から解き放つ神** この神はわたしたちの神、救いの御業の神／主、死から解き放つ神。と、賛美します。この言葉は聖書では 68 編にのみ記されています。峯を連ねた高い山々からも、海の深い底からも、背信や罪の中からも、神のもとに連れ帰って下さる神、と賛美します。
- ⑤ **凱旋** **神よ、あなたの行進が見える。わたしの神、わたしの王は聖所に行進される。**、神は聖所に行進します。歌い手が先頭に、楽を奏する者、太鼓を打つ者などの聖歌隊、君侯らが統率し、指導する、と神の凱旋に連なる喜びを歌います。神の箱を運んだ時、力の限りに踊ったダビデでした。

9 連～10 連は「神の国」としましょう。**あなたの神は命じられる／あなたが力を帯びることを。神よ、力を振るってください／わたしたちのために行動を起こしてください。**民は捧げ物を携えて神のもとに来ます。そして戦いを望む国々の民を散らします。最後に **力を神に帰せよ。神の威光はイスラエルの上にあり／神の威力は雲の彼方にある…** **イスラエルの神はご自分の民に力と権威を賜る** と賛美します。

『讚美歌 21』では 68 編を 17「聖なる主の美しさ」と <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-07-10> と関連づけています。ジュネーブ詩編歌は 36 編にも用いられた美しい、有名な曲です。

<https://www.youtube.com/watch?v=BIZ2sX09PnA&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=68>